

新しい詩
友しあいの詩



日本作詩家協会年刊詩謡集

1970年版

新詩
友(友)の詩

日本作詩家協会年刊詩謡集

1970年版

序に代えて

サトウハチロー

この詩集の中の詩は、どれもこれも、全部新作なのです。

これは、こういう詩集としてはめずらしいことです。

会員諸兄姉が、この詩集に力をそそぎ一生懸命になった証拠です。うれしいことです。

ひまわりのようなウタ

かすみ草のようなウタ

コクリコのような詩

山すみれのような詩

川の流れ、海の色、雲の形、風の匂い、町の灯り、山のただずまい……どの詩をみても、その詩のひとつひとつに特長がにじみ出ているのです。これもうれしいことです。

二十代のひと——

三十代のひと——

四十代、五十代のひと、それにボクみたいに六十代のものも……誰も彼もが……一篇ずつの詩を持ちよって出来上がったこの詩集。

ボクは、この詩集が出たことに、ほんとうの喜びを感じています。

よい仕事というものは、つづけて行きたいものです。ボクとしては、これ以上のものを次に、そうしてその次には、更に立派なものを出して行きたいのです。

これが出て、なんだかたのしくなりました。

空が晴れてきたような気さえしています。

(日本作詩家協会会長)

昭和四十五年陽春吉日

もくじ

	序に代えて……………サトウハチロー……………一
あ	
ああ しらさぎそう……………	越砂 温夫……………四
愛しても愛しきれない……………	岡田 壮三……………五
愛染化粧……………	渚 真砂子……………六
愛染ブルース……………	高橋 掬太郎……………七
愛の階段……………	やまもと・よしき……………八
愛の原点……………	鹿野 里美……………九
愛の叫び……………	吉田 弘……………一〇
愛のしるし……………	森 しげる……………三
愛の旅びと……………	西沢 爽……………三
愛の密輸……………	水野 徳好……………三
愛の約束……………	稲垣 潤一郎……………四
愛の呼鈴……………	小林 とくさ……………五
愛はブルースのように……………	島田 陽子……………六
青空は待っている……………	浦田 常治……………七
赤い爪……………	柳 英二……………八

秋が帰るよホイホイ……………	佐藤	まさみ……………	元
あさひさすのは……………	きだ・	たろう……………	三〇
明日のない女……………	汾陽	ひろし……………	三
明日という日は今日じゃない……………	長谷川	洋……………	三
アダムとイブの街……………	馬場	冬樹……………	三
アデュー赤坂……………	紫藤	孝……………	三
あなたなんか死んじゃえばいい……………	森	めぐみ……………	三
あなたに手紙を……………	鳥羽	もと子……………	三
あなたにひかれるものがある……………	土屋	紅……………	三
あなたの所へ帰りたい……………	坂口	雅輝……………	三
あなたは知らない……………	室山	多香史……………	三
あの女たちは今……………	大渡	弘良……………	三〇
雨の夜・ロマン……………	松本	英祐……………	三
あやめ船頭……………	仁木	としこ……………	三
アラブの男……………	遠藤	英一……………	三
安保七十年……………	原	三佳……………	三
インディアン物語……………	梢	ゆき……………	三
いちごとひばりの唄と	カナリヤとわたし……………	サトウハチロー……………	三
胃袋の中で踊るワルツ……………	高月	ことば……………	三
潮来の花……………	本城	さとる……………	三
偽りの言葉……………	鈴木	崇子……………	三
今なにがおこっているの……………	大竹	貢……………	三
浮名舟……………	植田	竹雄……………	三

嘘みたいな夜	中林	きみを	三
歌麿鼠小僧	猪又	良	五
唄をかえしておくれ	宇山	清太郎	五
美しい悪戯	いわせ	ひろし	五
えくぼの恋	富山	紫峰	五
小樽函館札幌夜曲	白土	やすじ	五
大坂の夜が燃えている	石川	泰久	五
置手紙	長尾	文生	五
おとぎばなしの夜	鈴木	哲郎	六
男	はやふじ	淳史	六
男でござる	富田	清吾	三
男なら いどめ	清水	みのる	三
男の風雪	牧	房雄	四
男の友情	藤間	哲郎	三
男は勝つまで	上尾	美代志	三
男舞	柴田	よしかず	七
思い出の街角で	内田	つとむ	六
お別れしましょう	飯塚	義美	六
おんなの乾杯	秋田	泰治	七
女心のてるてる坊主	さとう・ありひろ		七
女の寒流	筑紫	みなも	三
女の暦	安江	千秋	三
女の素顔	佐野	和子	四
女の慕情	小島	高志	五

か

女の湖……………	宮沢	守夫……………	六
女渡り鳥……………	吉野	ひとし……………	七
かえしたくない……………	岸本	浩志……………	六
かざり花……………	対馬	慎一郎……………	六
風に乗って遠くへ行きたい……………	永井	文雄……………	六
悲しい目ざめ……………	藤原	テルコ……………	六
悲しみのカノン……………	中司	雅子……………	六
悲しみを憎まないで……………	井田	誠一……………	六
消えた喫茶店……………	古館	多加志……………	六
祇園の舞妓……………	成瀬	左千夫……………	六
祇園町ブルース……………	長野	晶水……………	六
北国のおんな花……………	佐藤	木章……………	六
君がこころの湖に……………	柴田	幸昌……………	六
君は眠り姫……………	岩崎	吉太郎……………	六
くじらの港……………	宮沢	章二……………	六
くちづけも知らないふたり……………	細川	憲哉……………	六
釧路ものがたり……………	金子	知司……………	六
化粧小瓶の嘆き……………	夢	虹二……………	六
幻想……………	桑	早苗……………	六
コタンの舟唄……………	玉木	一史……………	六
こうのとりの子守唄……………	小谷	健一……………	六
ここへおかけよ……………	能勢	英男……………	七
この愛に生きて……………	白鳥	園枝……………	六
ご破算で願ひましては……………	佐藤	豹一郎……………	六

小石川の空	松井	由利夫	二〇〇
小粒の涙	須沢	玄詩	二〇三
恋とおしゃべり雀	宅見	愛子	二〇三
恋と風船	平井	健一	二〇四
恋のハーバーライト	山北	由希夫	二〇五
恋の色	岩間	純	二〇六
恋の法隆寺	淡島	千佳夫	二〇七
恋花火	池上	信	二〇八
恋人たちよ	美山	鋭太郎	二〇九
恋よさよなら	朝井	美智正	二一〇
心が俺の云うことを	高畑	和之	二一一
告白のブルース	ごとう	としのぶ	二一二
米	野本	高平	二一三
さだめの針	林	秀夫	二一四
さよならは涙で	本間	繁義	二一五
さよならは二度言わないで	弘内	正弥	二一六
さよならの半分は涙	門井	八郎	二一七
砂漠の足跡	本間	長三郎	二一八
砂漠の太陽	鈴木	重俊	二一九
砂漠の町で	梅田	幸三	二二〇
酒に泪を	丹治	公彦	二二二
更級夜曲	本多	祈美男	二二三
札幌夜曲	矢ヶ部	信次	二二三
指定席	中山	大三郎	二二四

	潮風のデイト……………	青木	一大……………	一五
	静かな別れの後で……………	酒井	良之佑……………	二三
	樹氷のように……………	佐伯	孝夫……………	二七
	出陣の曲……………	奥野	椰子夫……………	二六
	初夜……………	たなか	ゆきを……………	二九
	白樺の林の中で……………	相馬	日照……………	三〇
	新宿慕情……………	荻原	秀夫……………	三三
	進め！ 男性諸君！……………	逗子	太郎……………	三三
	それからの亜記子……………	星野	哲郎……………	三三
	それはあのおとき……………	二条	冬詩夫……………	三四
	それは故郷のように……………	横井	弘……………	三五
	草原の町……………	菊地	英夫……………	三六
	太陽のくちづけ……………	三上	博司……………	三七
た	断絶の恋……………	高木	一男……………	三八
	都会のため息……………	南	咏子……………	三九
	閉じ込めたいの……………	大野	いくを……………	四〇
	土曜日はあなたのおひざで……………	星合	節子……………	四一
	東京ジプシー……………	佐久間	清詩……………	四二
	東京ワイン……………	根岸	一男……………	四三
な	泣かせる浜松……………	佐々木	晶子……………	四四
	菜の花哀唱……………	福井	水明……………	四五
	内緒の恋……………	宮川	哲夫……………	四六
	涙をくぐりぬけたい……………	水紀	亜美……………	四七
	涙のエア・ベェイス……………	くしや	のぼる……………	四八

は

涙のわけを聞かないで	かつら	しゅん	一四
涙のわけは	島田	芳文	一五
涙の忘れ貝	橘	香織	一五
泪ぐんでる東京	塚谷	清一	一五
二月生れは雪の娘か	遠山	武男	一五
二羽の燕とわたし	宮中	雲子	一五
虹の見える場所	青江	ひとみ	一五
虹も消えてく	ふじと	たかし	一五
のけもの	みずの	稔	一五
ハートナイスラブ	桜田	健吾	一五
パパはどこにもいなかった	渋谷	郁男	一五
羽根のない蝶	古野	哲哉	一六
薔薇の海	森山	としはる	一六
走れD51	三益	武司	一六
花ごころ	大場	かんじ	一六
花はただ一度	門田	ゆたか	一六
母	池田	充男	一六
番傘子守唄	渋谷	登磨	一六
飛驒のひと	中山	邦雄	一六
一つの歴史	田村	和男	一六
白夜	八反	ふじを	一六
ブルーカラーの哀愁	服部	明郎	一七
ブルー・ミッドナイト・大阪	芦田	しげる	一七
プラメリア	渡辺	真早登	一七

	風来坊仁義	伊吹	とおる	一七三
	ホロホロ小唄	港	ひろし	一七四
	ポケットに両手を入れるとき	石本	美田起	一七五
	星空に偲ぶ乙女	中野	惣太郎	一七六
	忘却の旅	松平	八朗	一七七
ま	まぼろしのブルース	谷田	幸平	一七八
	真っ赤な旅情	荒木	忠雄	一七九
	松江の女	宮田	隆	一八〇
	三日月心中	大村	ひろし	一八一
	岬の雨	持田	和男	一八二
	水色のサングラス	志賀	大介	一八三
	水色のたそがれ	吾妻	ゆきをを	一八四
	港妻	結城	たかし	一八五
	むらさき色の貝殻に	美須	史朗	一八六
	昔の彼	大橋	虎之助	一八七
	酬われるときはなくても	水木	かおる	一八八
	胸を焦がしてマッカッカ	藤田	まさと	一八九
	芽生え	太田	早苗	一九〇
や	やすらぎ	永井	ひろし	一九一
	やり直しのブルース	おいだ・	みのと	一九三
	ゆうべ気になる夢を見た	三宅	立美	一九三
	遺言状	白井	喜一	一九四
	勇者の海	小野	津加佐	一九五
	夕日の渚	小口	幸重	一九六

夜明けの間奏曲	大藪 敏一	二七
夜霧の哀愁	松本 摂子	二八
夜霧の中の恋人	山田 晃義	二九
横須賀の夜	青木 三郎	三〇
夜をかえして	飛鳥井 芳朗	三一
夜があるから	滝川 たけお	三二
恋傷	松山 幸二	三三
恋情のブース	海老沢 孝一	三四
恋著	伴在 主計	三五
わかれの宿	松尾 幸雄	三六
わかれ道	須田 ひろし	三七
わたしの負けよ	花木 みつる	三八
別れてあげる	鈴木 雅矢	三九
別れても離れても	小林 金次郎	四〇
別れ路はきらい	加藤 省吾	四一
私のマリウス	原 由記	四二
あとがき	藤間 哲郎	四四

題字 藤田まさと
 装画 唐崎あけみ

配列はタイトルの五十音順による。
 但し、同音の場合は、片仮名、ひらがな、漢字の順。